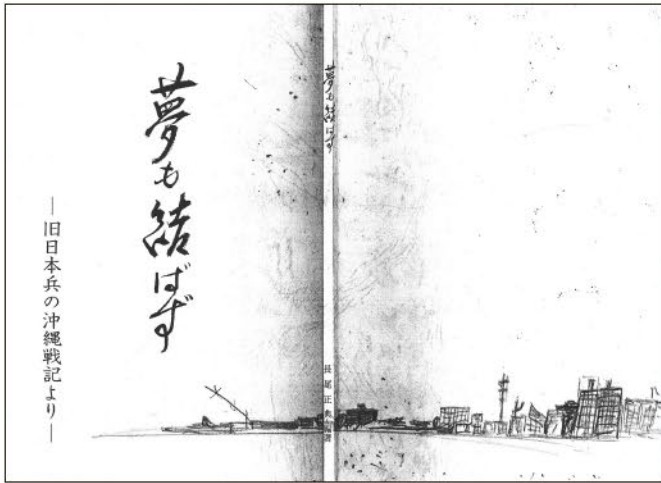


日本兵の沖縄戦記

「夢も結ばず」 上

戦後80年の2025年は、体験者の証言、手記、ご本人による講演、体験をもとにした朗読劇、創作劇を通じて、沖縄戦を考える機会が増えました。恩納村での戦争体験は恩納村遺族会が発行した「恩納村民の戦時物語」や、各誌での証言記録、「恩納村史戦争編」に所収されていますが、今回ご紹介するのは、宮崎県出身の長尾綱義さんによる戦時日誌「夢も結ばず」です。長尾さんの日誌には恩納村での体験が書かれてあり、恩納村の戦争を考える上で貴重な資料と言えます。このたび喜瀬武原在住の與儀清正さんから、恩納村での戦時体験が克明に記録されているので、ぜひ村民に知ってほしいとの依頼をいただき、紹介することとなりました。



「夢も結ばず」の表紙
(長尾正典編 1990年)

【発刊の経緯】

この日記は沖縄戦の真っただ中、那覇の方が長尾さんから預かったもので、預かった方の死後、遺族が発見し、長尾さんへ無事返却されました。長尾さんのご家族はこの日記を翻刻し、自費出版しました。

日本軍の記録は陣中日誌、命令書、戦後の史実資料などによって残されていますが、全てが残っている

元日本兵の遺品返したい

那覇の末松さんが本社に託す
軍隊手帳や日記帳
亡父が兵隊から預かる

琉球新報 1971年6月23日

わけではありません。日本軍が焼却したり、戦線の中で散逸するなど、残っておらず、兵士自身の手記は当時の状況を知る上でとても貴重なものです。またこの日記は軍の記録である陣中日誌などに記載されている日付ともほぼ一致しています。

【長尾さんが配属された「要塞建築勤務第6中隊」】

要塞建築勤務第6中隊(隊長:原口八郎中尉 以下第6中隊)は、第32軍司令部指揮下に置かれ、宮崎県都城で編成された部隊です。その任務は陣地や軍事施設の構築で、編成時には339人の陣容となりました。陣中日誌に編成時の名簿があり、長尾さんの名前も記載されています。階級は二等兵、身分は職工となっています。長尾さんと同じ班に属する隊員の身分を見ると、「大工」「鍛冶」「海員」「事務」など多岐に